

⑮ サツマイモを育てる

「つるぼけ」状態に注意

サツマイモは遅霜の心配がなくなる5月頃から植え付けますが、6月中旬位まで大丈夫です。芋から苗を作ることもできますが、市販の苗を買うのが手取り早いです。ビタミンC、ビタミンE、カルシウム、食物繊維が豊富です。天ぷらやみそ汁の具に使ったり、焼き芋や大学芋、スイートポテトなど料理のレシピも多彩です。栽培も手間がかからず荒地でも育つほど丈夫なので、初心者向けです。

①畑の準備 元肥として植え付け前に1平方メートル当たり堆肥2kg、イモ化成(成分5・10・15)100gを施します。畦幅80～90cmの高畦とします。

②苗の植え付け 良い苗は、茎が太く、葉が5～6枚ついていて、やや硬めで節間が適度に詰まった、しっかりしたものを選びましょう。徒長して節間が長いものや、逆に伸びが悪くて節間が詰まりすぎている苗は、良い芋がつきません。植え方は「水平植え」と「斜め植え」が一般的です。畑に十分湿りがある時は、水平植えし、晴天続きの時は、斜め植えの方が活着が良いです。間隔は40～45cm、10平方メートル当たり25本～31本必要です。

③中耕・除草・土寄せ 除草は生育初期と中期(植え付け後30～45日頃)の2回行い、地上部が地表を覆い隠す前に終了しましょう。同時につる返しを行います。つるが伸びたものを放置しておくと、つるの節々から発根し、途中の根から必要以上の養分を吸い上げて「つるぼけ」と言われる状態になります。つるぼけとは葉が不必要に増えて芋の収穫量が減ってしまう状態です。時々つるを持ち上げて株もと以外から出る根を引きはがしてしまいましょう。

④追肥 サツマイモは元肥で十分育つので、基本的に追肥する必要はありません。ただし保肥力弱い砂質土やプランターで育てる時に、葉が黄色くなったり生育が悪いと感じた時には追肥をしましょう。追肥はつるぼけを防ぐため、窒素成分の少ない化成肥料または薄い液肥を少量、畦の肩のところに施し、土寄せをしましょう。

⑤収穫 収穫は苗を植え付けてから4～5カ月後です。適期になると葉の濃い色が薄くなり、赤色や黄色に変色し始めます。雨が続いた後すぐ収穫すると、傷がつきやすく、芋が水分を吸って腐りやすく貯蔵性が悪くなるので、収穫は晴天が数日続いた後にしましょう。



(鹿児島市都市農業センター)

平成30年6月14日(木) / 南日本新聞